

Japan Association of Family Therapy 36th Annual Meeting in HOKKAIDO

一般社団法人 日本家族療法学会

第36回 北海道大会

2019 6/28 Fri ▶ 30 Sun



会場 北星学園大学
札幌市厚別区大谷地西2-3-1

大会長 阿部 幸弘

公益財団法人北海道精神保健推進協会
こころのリカバリー総合支援センター



テーマ

We Can Do

— 関係と変化を生み出す基本を学ぼう —

市民公開講座 無料

6/29 Sat

マンガで見る家族の変化

～サザエさんからゴールデンカムイまで～

時間/15:00～16:30

講師 呉 智英(評論家)

マンガ評論の第一人者・呉智英氏に、家族のあり方がどう変わってきたのか様々なマンガを通して話していただく、市民が誰でも参加できる企画です。日本の家族のあり方を広い視野で学ぶ機会になると思います。

詳細は裏面をご覧ください。

[後援] 北海道・札幌市・北海道精神科病院協会・一般社団法人北海道精神神経科診療所協会・北海道教育委員会・北海道臨床心理士会・公益社団法人北海道作業療法士会
公益社団法人日本社会福祉士会・公益社団法人北海道社会福祉士会・公益社団法人北海道看護協会・一般社団法人北海道精神保健福祉士協会

We Can Do ～関係と変化を生み出す基本を学ぼう～

大会1・2日目 6/28(金)～29(土) ●時間/9:30～17:15(予定)

大会長講演

「関係と変化 ～やってみないと分からない～」
阿部 幸弘(こころのリカバリー総合支援センター)

基調講演

「家族療法入門 ～家族療法のもの見方～」
檜林 理一郎先生(医療法人湖南クリニック)

大会企画

①関係と変化はどこに生まれるのか？

～『当事者研究』の場面で、『オープン・ダイアログ』の場面で～

当事者研究とオープン・ダイアログは、それぞれスタイルの異なる実践だが、人々の間に関係と変化を生み出す姿勢にどこか似た所がある。それぞれの第一人者に当事者を加えて語り合う。

[シンポジスト他]

- 向谷地 生良(北海道医療大学)
- 斎藤 環(筑波大学医療系) 他に、「べてる」の当事者を予定

②医療教育と患者ケアにマンガをしよう！

～グラフィック・メディスンのすすめ～

ごく簡単に言うと、ナラティブ・メディスンのマンガ版がグラフィック・メディスン。でも、患者さんの生きた経験をマンガで表現し、教育やケアに役立てようという話で終わらず、支援者・創作者など様々な立場から語ってみる試みの場。

[シンポジスト他]

- 小森 康永(愛知県がんセンター) ●安達 映子(立正大学)
- 團 士郎(仕事場D・A・N) ●阿部 幸弘(こころのリカバリー総合支援センター)

③虐待対応におけるサインズ・オブ・セーフティ・アプローチ

～子どもの安全を家族と創る実践に学ぶ～

サインズ・オブ・セーフティは、虐待事例において解決志向アプローチ等の対話により家族と協働関係を創り、主体者としての子どもの安全づくりを構築することを支援するアプローチ。実践者を集め、具体的に語り学ぶ機会を設定した。

[シンポジスト他]

- 鈴木 浩之(立正大学) ●渡邊 直(千葉県市川児童相談所)
- 阿部 弘美(北海道釧路児童相談所) ●竹岡 由比(北海道中央児童相談所)

研究交流会(懇親会) ●時間/18:30～

6/28(金) @TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通
(札幌市中央区南1条西1丁目8番地2 高森ビル)

教育講演①

「“予防療法”としての家族療法」
中村 伸一先生(中村心理療法研究室)

教育講演②

「自死を扱う時に若いセラピストに知っておいて欲しいこと」
吉野 淳一(日本医療大学)

④精神障害者家族支援の方法論

～『メリデン版訪問家族支援』『ACT』と家族療法との対話～

精神障害者とその家族を支える方法論は、家族療法だけではない。訪問で家族の交流を助ける「メリデン版」と、重症者の生活支援を含む「ACT」の実践者をゲストに家族療法との対話を試みる。

[シンポジスト他]

- 橋田 昌平(おおえメンタルクリニックゆう) ●吉野 賀寿美(医療法人社団五稜会病院)
- 渡辺 俊之(渡辺医院/日本家族療法学会会長)
- 阿部 幸弘(こころのリカバリー総合支援センター) ●吉野 淳一(日本医療大学)

⑤地域包括ケアと家族支援

～不適切な養育を指摘された家族の事例をとおして～

ソーシャルワーク実践で家族は大切だが、地域包括ケアが進められる今、家族全体を支援対象として捉える視点が求められている。実際の支援事例(不適切な養育を指摘された家族)を振り返りながら、家族成員総体のウェルビーイングを如何に高めるかを考える場にしたい。

[シンポジスト他]

- 森本 義貴(札幌市中央区保健福祉部) ●坂口 由美子(北海道大学大学院非常勤講師)
- 早苗 麻子(萌クリニック) ●木村 靖子(「社会福祉士事務所びばい」設立準備室)
- 福山 和女(ルーテル学院大学名誉教授/大学院附属包括的臨床コンサルテーションセンター)
- 小田島 一典(恵庭市学童クラブ)

■自主シンポジウム ■一般演題 ■スーパーヴィジョン ■事例検討

市民公開講座(無料) ●時間/15:00～16:30 ●講師/呉 智英(評論家)

6/29(土) マンガで見る家族の変化
～サザエさんからゴールデンカムイまで～

マンガ評論の第一人者・呉智英氏に、家族のあり方がどう変わってきたのか様々なマンガを通して語っていただく、市民が誰でも参加できる企画。家族療法家にとっても、日本の家族のあり方を広い視野で学ぶ機会だろう。

大会3日目 6/30(日) [ワークショップ] ●時間/9:00～16:00

テーマ	講師代表
災害と喪失	渡辺 俊之(渡辺医院/高崎西口精神療法研究室)
LGBT/多様なセクシュアリティの理解と心の支援	田村 毅(田村毅研究室)
児童虐待によってアタッチメントの問題を抱える子どもや家族にどう取り組むか	岡本 吉生(日本女子大学 家政学部)
家族心理教育	後藤 雅博(こころのクリニック ウィズ)
アウトリーチにおける家族支援 ～オープンダイアログを視野に入れて～	伊藤 順一郎(メンタルヘルス診療所 しほふあーれ)
離婚と家族	中村 伸一(中村心理療法研究室)
ヘルピングスキル ～家族等への支援の学び方～	遊佐 安一郎(長谷川メンタルヘルス研究所)